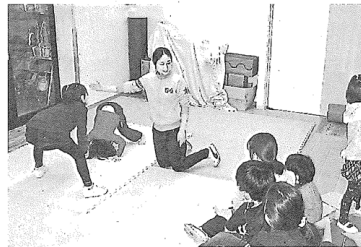


見る聞く訪ねる

児童デイ ころぼっくる



療育活動に取り組む。ころぼっくるのゆったりした教室(宇治市横島町)

「こぼっくる」は、子どもの主体性を最も重視する運営方針が貫かれており、子どもの主体性、協調性、自律性のバランスを回復する発達療育を行う。亀口さんが「こぼっくる」を開設した当初の登録児童は20人、すべて就学前の子も多かったが、今は、就学前の子も26人に対して、小中学生は56人、小中学生の方が多くなっている。軽度の発達障害の子もが全体の8割を占める。就学前の子もたちは週1回が2回、親と連れられてくる。皆、楽しんだ。しかも母親たちも笑顔が絶えない。午前中の

同法人の中軸となる

宇治市横島の閑静な住宅街、その一角に児童デイ「ころぼっくる」がある。親しみやすい「障壁」の建物には発達障害、自閉症、引きこもり症状などのある子どもたちを療育する教室が四つある。ゆったりとした空間でのびのびと学ぶことが出来る発達療育の場となっている。地域の期待を担うとともに、先進的な取り組みが目指され、全国から福祉施設関係者の見学が絶えない。

「こぼっくる」は今年から9年前の2005年、開設された。その1年前に設立されたNPO法人「アソール」が運営する。アソール舎の掲げる願いは「子どもをまなす」と「声なき声」を大切にしたい。子どもによる「子ども当事者主体」の扉を開きたい。子どもたちのための「子ども基本法」を

子どもの主体性重視

自立、自己実現の第一歩

「こぼっくる」は、子どもの主体性を最も重視する運営方針が貫かれており、子どもの主体性、協調性、自律性のバランスを回復する発達療育を行う。亀口さんが「こぼっくる」を開設した当初の登録児童は20人、すべて就学前の子も多かったが、今は、就学前の子も26人に対して、小中学生は56人、小中学生の方が多くなっている。軽度の発達障害の子もが全体の8割を占める。就学前の子もたちは週1回が2回、親と連れられてくる。皆、楽しんだ。しかも母親たちも笑顔が絶えない。午前中の

言語聴覚士ら専門家が療育活動

約3時間、「こぼっくる」の言語聴覚士、臨床心理士や作業療法士らとともに工夫された遊びやものを整理したり体験したりする。子どもたちの発達支援を行っている。そのうち脳の高機能「感覚統合」というのが、そうした動きの向上を通じて目覚めを促している。各教室では、子どもたちが楽しみながら学んでいる様子が見える。小中学生たちは学校の授業が終わった放課後にやってくる。友達との遊びやゲームを通じてコミュニケーション力や対人関係を学んでいる。

亀口さんは「こうした学びも訓練を通じて、大やが社会に対する安心感を得ています。それに、主体的に学ぶことで、自分から課題を見つけて向かっていく力をつけていけるのです」と強調する。亀口さんが力を入れているのは「相談室」を設けており、落ち着いた雰囲気の中で親たちが相談できる。親たちの不安などを解消し、対応策を提示していくのも評判を呼んでいる。何十年とこの道を実践してきた経験が親や子どもたちの安心と信頼を生んでいるようだ。亀口さんは16歳以上の子どもたちに対する発達療育にも関心を強めている。「大人になるには越えていくべき壁がいっぱいあります。それをひとつひとつ、主体的に越えていける力を持つようサポートする場を作れないかと考えています」と語り、動き出せる日も近いと考えている。

ふれあい広場

福祉のパートナーズ